



社会福祉法人連携の 取り組みを「見える化」する

兵庫県内では、社会福祉法人が種別の違いを超えて市区町域で連携し、地域のくらしの課題に取り組む「社会福祉法人連絡協議会（通称：ほっとかへんネット）」が次々と設立されている。

今年度は各市区町域における実践の「見える化」を目的としたロゴマークの作成や、ホームページ立ち上げを行った。それらの活用も含めた情報発信の取り組みを報告する。



ロゴマーク「ほっとか^{ナイト}騎士」

困っている人を決して見過ごさないという「ほっとかへんネット」の思いを、県の形にデザインし、表現した

社会福祉法人連絡協議会の活動内容

兵庫県では、「ほっとかへん」を合言葉に、市区町域で複数の社会福祉法人が連携し、地域の生活・福祉課題の解決を図る取り組みを平成26年度から進めている。

令和2年1月末時点で、県内30の市区町で社会福祉法人連絡協議会（以下、「ほっとかへんネット」）が立ち上がっている。

各市区町における活動内容は多岐にわたるが、今年度の重点的な取り組みで最も多いのは、「**ネットワークづくり**」である【表1】。具体的には、ほっとかへんネットに参画する社会福祉法人同士の交流や情報交換を目的とした役職員の研修会、実務担当者会議など、事業推進に向けた会議の開催である。ネットワークをつくることによって、ほっとかへんネットの活動の土台といえる、異なる法人に勤める職員同士の顔の見える関係づくりを図っている。

次に取り組まれているのは、**災**

害時を想定した取り組み」である。

要援護者支援に加え、各法人の防災マニュアルや参画法人同士の相互応援協定の作成、防災訓練や避難訓練の実施などがあり、部会を設けて検討している市もある。

そして、これらの取り組みを発信する「**啓発活動**」が三つ目にあげられる。地域のイベントへの参加や、ほっとかへんネットのパンフレット、冊子、ホームページの作成などが具体的な取り組みである。

表1 今年度の重点的な取り組みについて

取り組みの区分	実施市区町数 (複数回答)
地域の関係者とのネットワークづくり	14
災害時を想定した要援護者支援等に関する取り組み	12
地域福祉推進に関する各種事業への参画、福祉啓発に関する活動	8
地域の要支援者に対する相談支援	5
地域の要支援者に対する会食、配食、食材配達等の食生活の支援	5
福祉学習、ボランティア・福祉人材の育成に関する活動	5
福祉人材の確保に関する活動	4
地域の要支援者に対する移動・外出の支援	2
地域の要支援者に対する生活支援、緊急資金・物資の貸与・提供	2
地域住民等との交流・意見交換の実施	2
地域の要支援者に対する学習支援、就労支援、見守り支援	1
その他(中長期計画の策定、地域ごとの取り組みの検討など)	4

令和元年8月末時点(兵庫県社協調べ)

活動の見える化に 向けた県域の取り組み

今年度、県社協では、ほっとかへんネットの活動の「見える化」に積極的に取り組んだ。

ロゴマークの作成

ほっとかへんネット代表者を委員とする「兵庫県社会福祉法人連絡協議会代表者等連絡会」で協議し、ロゴマークを「ほっとか騎士」に決定した。(右ページのイラスト参照)

このロゴマークは、各市区町での広報に活用されるようホームページからダウンロードできる。また、ロゴマークを活用したのほりも各市区町に配布しており、施設内やイベント時の掲示に活用いただいている。

ホームページの立ち上げ

市区町域でのほっとかへんネットの取り組みを紹介することを目的に、県社協のホームページ内に「ほっとかへんネット」のページを

立ち上げた。各市区町のほっとかへん

ネット上で独自に作成したホームページへのリンクやパンフレット、機関紙の記事などを掲載し、各地の取り組みを広く発信している。

URL: <https://www.hyogo-wel.or.jp/public/hottokahennet.php>



各市区町での取り組み

各市区町における具体的な取り組みを紹介したい。

ほっとかへんネット攤

ほっとかへんネットを知ってもらう目的で、チラシを作成し、民生委員・児童委員や区役所に配布。チラシには法人の所在地を記した地図が入っており、民生委員・児童委員からも「わかりやすい」と好評だ。



ほっとかへんネットおの

本紙10月号で掲載した買い物バスツアーなどの取り組みを、「ほっとかへんネットおの」のホームページや市社協の情報誌で発信。情報誌は年5回全戸配布され、住民や関係者の目にふれる機会も格段に多い。



ほっとかへんネット丹波

「ほっとか騎士」を刷り込み、目立つ色を使ったタスキを作成。市内外から多くの人が訪れる「丹波GOGOフェスタ」などのイベントでPR活動を展開した。狙いどおりタスキが目立ち、子どもを始めた来場者に大好評であった。



ほっとかへんネット新温泉

県社協が作成したのほりを町民文化祭の、ほっとかへんネットの介護関連ブースで掲示。ロゴマークについて住民の方から声を掛けられる場面も多かった。



活動を発信し、 次につなげる

全国社会福祉法人経営者協議会が行った「全国生活者一万人意識調査」では、社会福祉法人の認知は2割にとどまったという。

社会福祉法人が展開する地域に向けた取り組みは、ほっとかへんネットの枠組みを生かした連携によって幅広い発信が期待できる。先の事例のように、さまざまなツールを用いた「見える化」で、まずは地域に存在を、そして活動を知ってもらうことが、次の展開への一歩につながる。